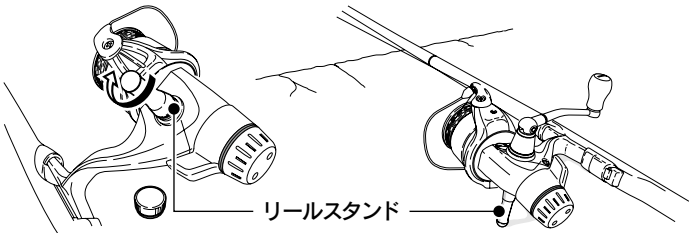


操作方法

■リールスタンドのご使用方法

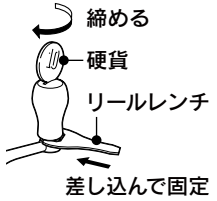
●竿受けを使わず、ロッドを直置きする場合
防水キャップを取り外し、付属のリールスタンドを装着してください。



※取り外した防水キャップは紛失しないように注意してください。
※ご使用中、リールスタンドの緩みにはご注意ください。

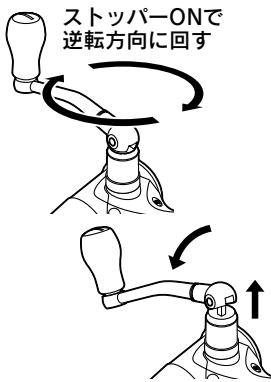
■ハンドルノブキャップの締め付け方

ハンドルノブキャップがなんらかの理由で緩んだり、緩めた場合、図のように付属のリールレンチで四角形のハンドル軸を固定して、硬貨でハンドルノブキャップをまわして締めつけてください。



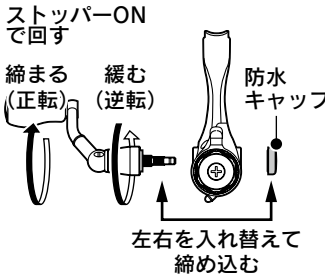
■ハンドルの折りたたみ方法

ハンドルはネジ込み式になっています。たたむ時はストッパーツマミをONにしハンドルを数回逆転方向に回転させると、ハンドルが緩み、折りたたむことができます。のばす時はたたむ時と逆にします。(図は右ハンドルの場合です。)
※この時ハンドルを緩め過ぎますと、本体より抜け落ちますのでご注意ください。



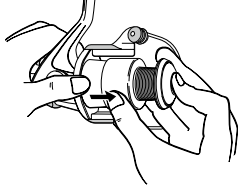
■ハンドルの左右付け替え方法

ハンドルは左右共用ネジ込み式になっています。左右を入れ替える時はストッパーツマミをONにしハンドルを数回逆転方向に回転させると、ハンドルが緩み、本体より抜けます。ハンドルと防水キャップを左右入れ替えて、ストッパーONで正転方向に廻して本体にねじ込んでください。



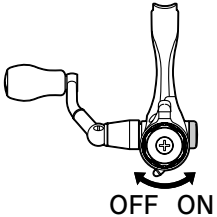
■スプールの着脱方法

●取り外し方
人差し指でプッシュボタンを押しながら、スプールを引いて下さい。
●取り付け方
スプールをゆっくり回しながら、カチツと音がするまで押し込みます。確実に装着できたか、一度引っ張ってはずれないか確認してください。



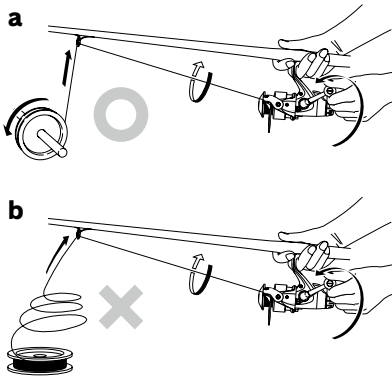
■ストッパーツマミの操作方法

リール後ろから見てツマミが右に倒れている時(ON)、逆転止めがかかり、ハンドルは正転方向にしか回りません。通常の巻取りやドラグで魚とやりとりする時に使用します。同様に、ツマミが左に倒れている時(OFF)、逆転止めが解除され、正転、逆転どちらの方向にも回ります。ハンドル逆転による糸の送り出しができます。



■糸の巻き方

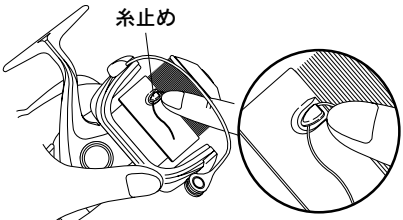
1. ドラグを強く締め込みます。
2. リールを竿にセットします。
3. 元ガイドから糸を通してスプールに結びます。
4. 糸が巻かれているポビンに、割り箸や鉛筆等の軸になるものを通します。
5. そのポビンと軸を誰かに持ってもらい、適度(スプールに巻かれた糸にツメを押し込めない程度)なテンションをかけて、ポビンを回転させながら糸を巻き取るようにして下さい。(図a)
図bのようにならないようご注意ください。



尚、PEラインを巻かれる時は、事前にPEラインを充分に湿らせてください。巻き上げ時に発生する熱(抵抗熱)によってPEラインが劣化するのを防ぐためです。

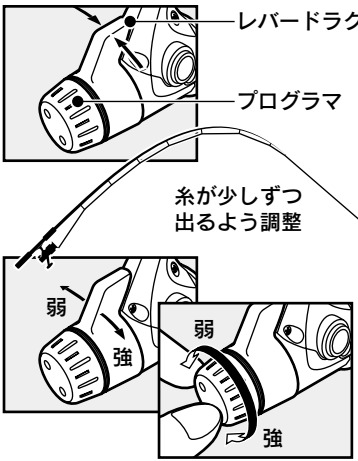
■糸の止め方

ツメの下側から糸を通して固定して下さい。



■レバードラグの操作

1. 実際に使用する竿に本機を取り付け、道糸をガイドに通します。
2. レバードラグを中央のストライクポジションに合わせます。
3. ラインの先端を何かにかけ、図のように竿をしばらく込みます。
4. この状態で、糸が少しずつ出ていくようにプログラマを調整します。
5. プログラマツマミを時計まわりに回すとドラグ力は増加し、逆に回すとドラグ力は減少します。



以上で最適ドラグ値の設定は完了です。設定後、プログラマ操作は不要です。あとはレバードラグを左に右に倒すだけで、やりとりはまさにトローリング感覚。最適ドラグはいつも一定。
※使用する竿や仕掛けを変えた場合は同様の手順で再調整してください。

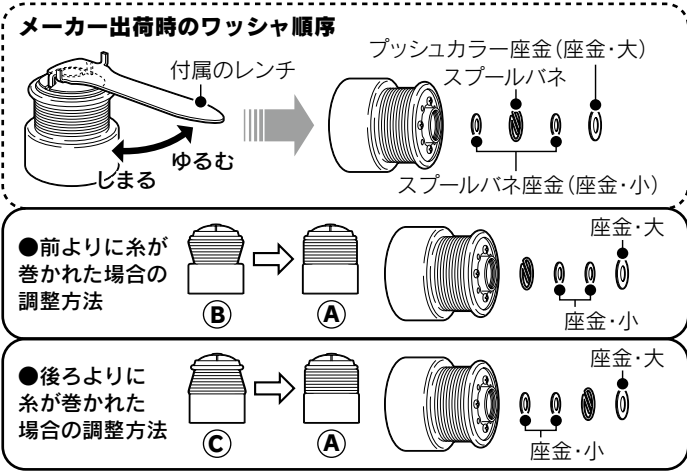
●より正確にドラグ値を設定する場合

3. の時にバネ計りを使用します。バネ計りを固定するか、他の人にもってもらい、糸の先端をバネばかりに結びつけます。こうしておいて、バネ計りの目盛りをよみながらドラグ力を設定するわけです。

糸の破断強度の1/3がおすすめ設定値です。

■糸巻形状の調整方法

バイオマスターLアオリシリーズはそれぞれの番手の糸巻量表示で150mぴったり巻ける太さのラインを巻いたときに、図(A)のようなテーパーのない平行な糸巻形状になるように設計されています。それより細い糸になる程逆テーパー(B)になりやすく、太い糸になるほど順テーパー(C)になりやすい性質があり、いずれの場合もライントラブルの原因になりやすいものです。ワッシャ調整で(A)に近い状態に巻き上げていただくことをお勧めします。調整方法は以下の手順です。

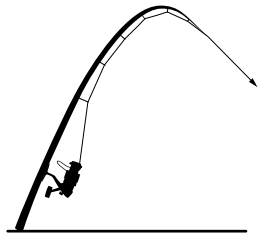


※スプールを組み直す時は、必ずプッシュボタンの先端突起部2つをバネの図の位置にセットし、プッシュボタンを押して弾力があるか確認してからプッシュカラーを組み付けてください。

■ドラグの調整方法

ドラグは、その強弱を調整することによって急激な魚の引きに対し、スプールが空転して糸切れを防ぐ機構です。

1. 実際に使用される竿に本体をセットし、道糸をガイドに通してください。
2. ストッパーONの状態で、図のように糸を引き出しながら、ドラグツマミの締めつけを調節してください。ドラグ力は右に回すと強くなり、左に回すと弱くなります。
3. 通常は糸切れを起こす寸前の力でスプールが空転し、糸が出ていくように調節してください。また遠投などする時は、必ずドラグをよく締めつけてから投げするようにしてください。ドラグが滑って糸で手を傷つけることがあります。



使用後のご注意

■保管上のご注意

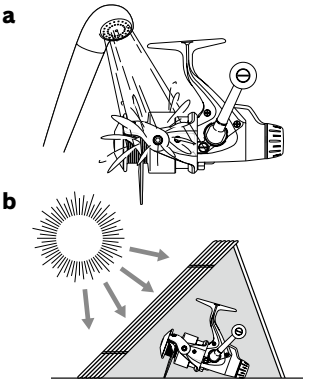
- 海でのご使用の後は、「使用後のご注意」「水没時の緊急措置」の方法で塩分を取り除き、良く乾燥させて保管ください。保管の際は必ず竿から取り外してください。
- 塩入ワームを本体に密着させたまま保管されますと腐蝕する恐れがあります。又、濡れたまま湿度の高い状態で密閉された空間(自動車のトランク、ダッシュボード)に長時間放置されますと腐蝕を起こす可能性がありますので、なるべく乾燥した冷暗所に保管してください。

■必ず竿から外して下さい。

使用後は、必ず竿から取り外して、真水で水洗いしてから保管ください。例え、水洗いされても、竿とセットしたまま放置されますと、リールのフット部とリールシートのフード部が水が溜まり、腐蝕する恐れがあります。

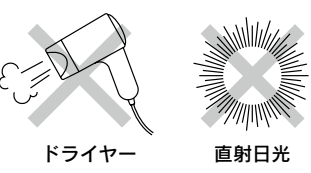
■水洗いして下さい。

まず、ドラグ内に水が入らないように、ドラグを締め込んでください。次に、シャワー等の真水で、リールに付着した塩分、砂、汚れを水洗いしてください。(図a) 温水はグリスを洗い流す恐れがありますのでおやめください。又、同様の理由で、リール本体、スプール、ハンドルを水没させないでください。



■乾燥させて下さい。

しっかりと水を切った後、直射日光を避け、陰干ししてください。その際、オイルインジェクションの注油口キャップを外すと効果的です。尚、直射日光、ドライヤー等は、内部のムレを引き起こします。お避けください。(図b)



■注油して下さい。

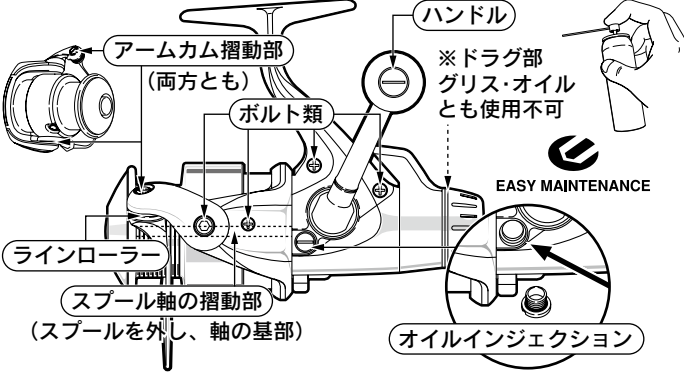
オイルとグリスは下図を参考にしていただき、それぞれ間違えないように噴霧してください。尚、グリス、オイルは弊社純正品(下記参照)をお使いください。そうでない場合の品質は保証いたしかねます。ご注意ください。※グリスは、分解してグリスアップする場合以外は必要ございません。

SP-003H (メンテスプレーセット)	¥1,900
SP-013A (オイルスプレー)	¥1,050
SP-023A (グリススプレー)	¥1,100
DG01 (リールドラグ部専用グリス)	¥800

※最寄りの販売店にてお問い合わせ下さい。
上記は2008年2月現在の品番及び税抜本体価格です。

尚、オイルインジェクションからオイルを噴霧する頻度は、水洗い・乾燥後及び、釣行5回につき1度、または、次の釣行までの期間が1ヶ月以上ある場合に1度を目安にしてください。又、1度の噴霧(注油)時間は約1秒です。注油後、注油キャップは必ずお閉めください。逆流したオイルで服を汚す場合があります。ドラグ部にはシマノドラグ専用グリス(上記参照)以外は塗布しないでください。ドラグ専用グリスを必要な方は、アフターパーツで取り扱っておりますので最寄りの販売店にてご注文ください。

●オイル(スプレー)使用部品箇所



※グリスは、分解してグリスアップする場合以外は必要ございません。

水没時の緊急措置

万が一、リールを水没させてしまい内部が浸水した場合は、下記の応急処置をとってください。

●淡水の場合

オイルインジェクションの注油口キャップを外し、その部分が下になるようにして水を抜き、充分に乾燥させた後、弊社純正オイルスプレーを1~2秒間注油してください。

●海水/汽水の場合

真水で水洗いをしてください。その後、オイルインジェクションの注油口キャップを外し、その部分が下になるようにして完全に塩水を抜き、内部が乾燥するのを待たずに、最寄りの販売店を通じて弊社サービスに修理品としてお預けください。

定期メンテナンス

■ベアリングの塩噛み

A-RB(耐塩水ベアリング)は錆びにくいボールベアリングです。ベアリング内部に塩水が浸入して発生する「塩噛み」を防ぐものではありません。ベアリング内部に塩水が浸入して乾燥すると、塩噛みを起こす場合があります。錆びている訳ではありませんが、同様に音なり、ゴロ付き等の症状が出る場合があります。その場合、A-RBを取り出して真水で洗い流して塩抜きするか、A-RBごと交換しなければ、完全には解消出来ません。

■弊社サービスへご依頼下さい。

リールの状態は、使用頻度のみならず、使用環境、使用方法、対象魚等によって大きく変わります。回転時の異音、違和感を感じられたら、最寄りの販売店を通じて直ぐさま弊社サービスへ、そうでなくとも半年に1度はお預けいただくことをおすすめいたします。